

2008年4月2日

Daily comment

「資本増強策」伴う損失処理をひとまず歓迎!?

4月初日のマーケットは、スイス銀行大手 UBS による増資計画を伴う損失処理や米証券大手リーマン・ブラザーズの優先株に対する強い需要が好感され、世界の主要株価指数は全面高、為替市場では米ドルが全面的に買い戻される展開となった。

また、注目の米 3 月 ISM 製造業景気指数が 48.6 と前月の 48.3 から改善し、市場予想の 47.5 を上回ったことも安心感を誘ったようだ。

米主要 3 株価指数は 3% 超の大幅続伸となり、NYダウとの相関が高いドル/円は一時 102.16 円まで続伸幅を拡大した。

この日の高値は 108.62 円(02/14)から 95.77 円(03/17)の下落幅 12.85 円に対する 50%retrace の 102.20 円処を実現したに過ぎず、日足チャートに記した Minor 下降チャンネルライン A' = 102.31 円処の手前で跳ね返される格好となっている。

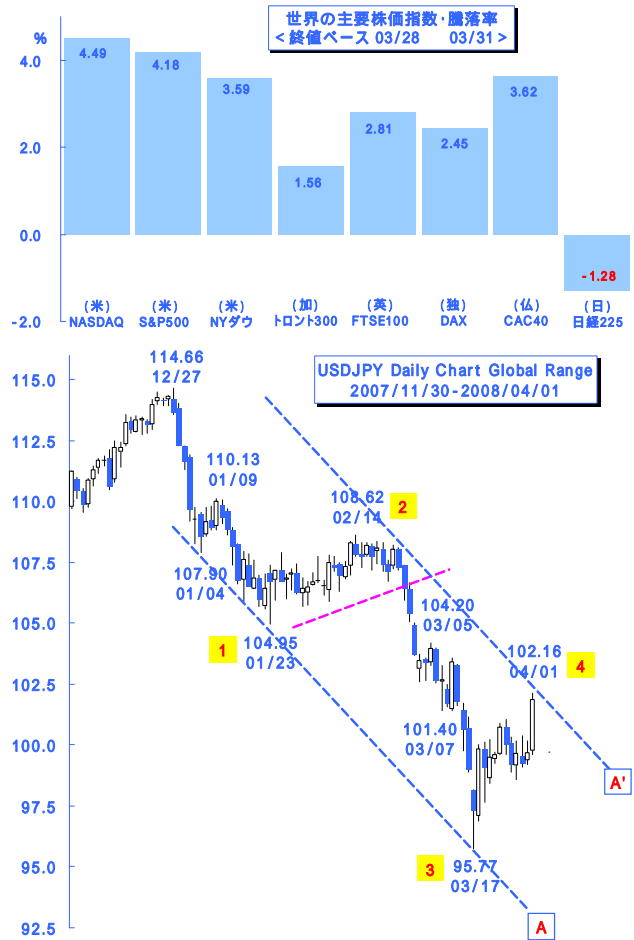
(Major 下降チャンネルラインは昨年 12/27 の高値 114.66 円を基点とする強力なレジスタンスとなる)

また、この日の NY クローズ = 101.87 円は日足基準線の 101.96 円処を上抜くには至っていない。

この基準線は、昨日の 101.96 円処から本日は 101.59 円処に、今週末には 100.39 円処へ急降下する計算(暫定値)となっており、自律反発の持続性が試されることになる。

ところで、昨日のマーケットは欧米金融機関の資本増強策を受けて、金融機関が信用市場での損失拡大を乗り切るとの観測が強まり、金融株主導で全面高となっている。

特に UBS の場合は、巨額損失の計上、大幅資本増強策、トップの交代、という市場が好感する損失処理の 3 点セットを備えており、素直に歓迎されている。しかし、追加損失の内訳は、サブプライムローン関連証券にとどまらず、プライムとサブプライムの中間に位置する「オルト A」関連証券の投資額も含まれている。このことは、他の金融機関も同様の追加損失処理を迫られるということであり、問題の根源である住宅価格が下げ止まらない限り、悪循環が続くことになる。



欧米金融機関の資本増強策

- ・ **スイス銀行大手UBS**
1 - 3 月期決算 サブプライムローン関連で190億ドルの追加損失を計上 150億スイスフランの増資を実施 (JPモルガン・チェースなどが引受先)
- ・ **米証券大手リーマン・ブラザーズ**
優先株による資本調達
申し込みが予定を上回り当初の30億ドルから40億ドルに引き上げ

米大手金融機関の1-3月期決算発表

- 4月15日 ウェルズ・ファーゴ
- 4月16日 JPモルガン・チェース、ワコピア
- 4月17日 メリルリンチ
- 4月18日 シティグループ、バンカモ

住宅ローン関連以外の評価損計上へ

- 米証券オッペンハイマーによる6金融機関の1-3月期損失計上見通し
- ・ 商業用不動産ローン担保証券 (CMBS) 関連 約52億ドル
 - ・ レバレッジドローン関連 約61億ドル

当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご留意ください。

米証券オープンハイマーは、1 - 3 月期の米大手 6 金融機関の損失計上見通しについて、商業用不動産ローン担保証券や企業向け融資(レバレッジドローン)など住宅ローン関連以外の評価損拡大を指摘するなど、金融不安が長引く可能性は大きいといえよう。(追加損失処理で金融機関の自己資本が不足すれば、貸し渋りや貸し剥がしにより金融市場全体の流動性が低下するほか、実体経済への影響も生じる)

とりあえず、昨日の株高・ドル高は、原油や金などコモディティー市場の値上がり益を確定し、割安感の強い金融株に乗り換える“セクターローテーション”による一時的な動きとみることもできよう。

また、米 3 月 ISM 製造業景気指数についても、主要 3 項目の「雇用」は 49.2、「生産」は 48.7、「新規受注」は 46.5 と、いずれも景気判断の分かれ目となる 50 を下回っており、ドル安の恩恵を受けた「輸出」が 56.5 と製造業を下支える構図となっており、景気後退の瀬戸際に立たされているとの認識に変わりはない。

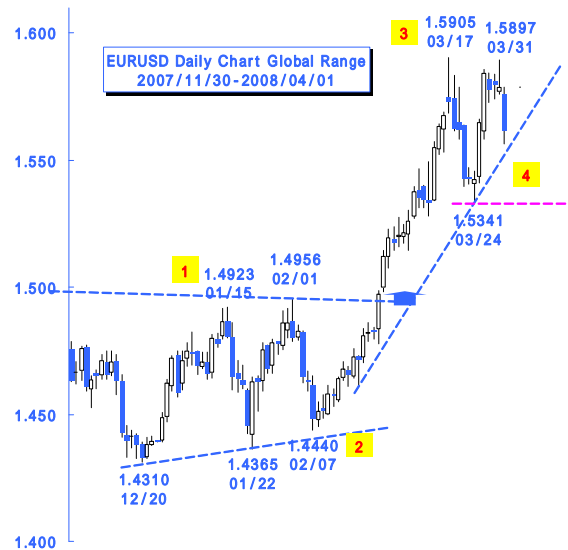
4 月初日の株高スタートが“エイプリル・フール”に終わらないよう期待したが、今週は週末にかけて重要イベントおよび主要指標の発表が目白押しとなっているだけに、予断を持たないようにしたい。

追伸

昨日のユーロ/ドルは、03/26 の長大陽線の安値 1.5583 ドルを下抜けて一時 1.5563 ドルまで急落したが、NY クローズでは長大陽線のなかに戻し、続落リスクを回避する格好となっている。

右チャートに記した波動のラベリングが示すように、現在はまだ小勢 4 波が継続しているとの認識が必要かもしれない。この 4 波が日柄調整的な三角保ち合いを形成するのか、それともサポートラインをブレイクして値幅調整となるのか、今週は重要局面に位置しているといえよう。

(4 月 2 日 10:55 記)



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。